

令和4年度 公益社団法人京都府看護協会重点目標

少子高齢化が更に進展する社会において、病床の機能分化、地域包括ケアシステム構築の推進を加速的に進める必要がある中で、新型コロナウイルス感染症患者の全国的な増加・蔓延が繰り返されてきた。活動を停止・停滞させるのではなく、with コロナ・post コロナの時代にどのように看護を提供していくかに挑戦する時代となってきた。

コロナ禍の引きこもりがちな生活によるロコモシンドロームの発症予防や感染防止に留意し、健康づくりや在宅療養できる環境整備を進めていく必要がある。その中で、看護職には病院・施設・在宅における質の高い看護の提供や多職種連携による地域ネットワークの推進など、人々が住み慣れた地域で自分らしく生活できる看護の連携体制整備や療養生活支援と、緊急対応を迫られる感染症対策を進めていくことが求められている。

また、人口が減少し働き手が少なくなる中で、看護職の確保・定着の取り組みは必至であり、看護職の勤務環境の改善を図ることも併行して検討していくことが喫緊の課題である。

さらに、近年多発する地震、水害などの災害対応力を強化し、災害発生時には迅速・的確・積極的に被災者支援活動を行える看護体制を充実させることが急務であり、特に受援体制の整備が課題となっている。

これら多岐にわたる課題に対応できる視野の広い看護力を身に付けるためには、看護基礎教育4年制化等の教育体制の充実が必須であり、日本看護協会と足並みを合わせて取り組みを推進することにより、看護職の地位向上を目指すことが重要である。

以上のことから、令和4年度の重点目標の柱は、昨年度を引継ぎ、Ⅰ 地域包括ケアの推進 Ⅱ 働き続けられる職場環境づくり Ⅲ 専門職としての資質向上 Ⅳ 災害時看護支援体制の充実 Ⅴ 看護基礎教育体制改革の推進 Ⅵ 感染症対策の充実と看護師職支援体制の強化とした。

なお、6つの重点目標を具体的に推進するためには、活動基盤となる組織力の強化が重要であり、会員数の拡大をめざし、目標会員数を府内就業者の50%以上とする。

<重点目標>

Ⅰ 地域包括ケアの推進

- 1 在宅療養を支える体制整備
 - 1) 訪問看護提供体制の強化
 - 2) 医療的ケア児の円滑な在宅療養移行に向けた支援体制の整備
- 2 看護職ネットワークの構築
 - 1) 地域包括ケアを目指した看護職ネットワークの構築
 - 2) 専門性の高い看護を必要とする在宅療養者に対する支援体制の検討

Ⅱ 働き続けられる職場環境づくり

- 1 看護職員の確保定着の推進
- 2 看護職の就業環境改善に係る管理者への支援

Ⅲ 専門職としての資質の向上

- 1 看護師のクリニカル・ラダーに対応した研修プログラムの再構築
- 2 看護師のクリニカルラダーの活用の促進
- 3 専門的分野の教育・研修の充実

Ⅳ 災害時看護支援体制の充実

- 1 各施設の災害時の体制強化に向けた支援
- 2 災害支援の充実への取り組み

3 助産師会と連携した周産期災害体制の構築

V 看護基礎教育体制改革の推進

- 1 日本看護協会と連携した看護師基礎教育4年制化の推進
- 2 実践能力を高めるための環境の整備に向けた取り組み
- 3 准看護師制度の課題解決に向けた取り組みの推進

VI 感染症対策の充実と看護職支援体制の強化

- 1 看護師派遣システムの構築による看護職支援体制の強化
- 2 感染症対策に強い看護職の育成